

2016年12月

40年の歳月を経てもなお、めぐみさんを取り戻せないご家族の思い。
どうか心に留めてください。

めぐみちゃんと家族のメッセージ

横田 滋 写真展

- 新宿高島屋 11階催会場 ※入場無料
- 2017年1月5日(木)から1月10日(火)まで 最終日は午後6時閉場
- 主催：あさがおの会 共催：朝日新聞社 後援：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
- 入場料：無料

横田めぐみさんが13歳で家族から引き離され、拉致されてから、まもなく40年が経とうとしています。
来年2017年は、拉致とわかってから20年、更には北朝鮮が拉致を認めてから15年という節目の年となります。

横田滋さん・早紀江さんご夫妻を支援する「あさがおの会」(※)では、横田さんご夫妻の愛娘めぐみさんを含む大勢の日本人が北朝鮮に拉致され、いまだ会えずにいるこの事実を多くの人に考えてもらいたいと、横田さんご夫妻が大切にしている写真をご覧いただき写真展をこれまでに各地で開いてきました。

横田めぐみさんが家族から引き離されたのは13歳のとき。家族の何気ない幸せの思い出を綴れなくなってから、実に40年の月日が過ぎました。

その間、一度は見えた希望の光もまた遠のき、遅々として進展が見られない日々。

「海の音が悲しくて、桜が咲くと悲しくて、雪が降ればもっと悲しくて・・・」それでも希望を失わなかった早紀江さん。

「私達は写真に写っているかつての楽しかった時間を取り戻したいのです」という滋さん。

気が遠くなるような苦しみの時を、拉致被害者家族は過ごしてこられ、今は老いとも闘い、高齢となった被害者家族に残された時間は長くはありません。

今回、新宿高島屋で開催する写真展では、初公開の写真を含む約90点の写真パネルと、めぐみさんの思い出の品約10点(めぐみさんの思い出の品については、写真展で展示するのは初めてのものを含みます)を展示するとともに、新たに制作された映像の上映も会場内で行います。

また、「記事でたどる拉致問題」展なども併催することで、より多くの方に写真展に足を運んでいただき、拉致の悲しさやご家族が苦しんできた年月の長さや、一刻も早く娘を取り戻したいという横田ご夫妻の痛切な願いを皆様にお伝えし、この願いがかなう一助になりたいと願っております。



1976年(小6)新潟に引越すと、海が珍しくてみんなで見に行った。1年後この海岸近くでめぐみさんは姿を消した。
新潟市の寄居浜海岸で。

※「あさがおの会」について

2003年5月 横田ご夫妻と同じマンションに住む住民有志がご夫妻の拉致被害者救出活動を身近で支援するために設立した団体です。会の名称は、北朝鮮でめぐみさんが曾我ひとみさんに押し花を作って贈った、めぐみさんの大好きな花「あさがお」にちなんでご夫妻につけていただきました。



1977年(小6)新潟で迎えた最初のお正月。初めて母親の着物に袖を通した。新潟の自宅前で。



1974年(小4)家族旅行で、お母さんに寄り添って記念撮影
広島県呉市の音戸の瀬戸公園で。



9年間続けたバレエをやめ、めぐみさんはバドミントンに
専念する。拉致される少し前、最後の公演で着た衣装は
見るのが辛くてしまい込まれていた。

池上彰さんと横田早紀江さんの対談

・日時：1月5日(木)午後2時 ・会場：新宿高島屋2階ウエルカムゾーン

ジャーナリストの池上彰さんと早紀江さんの対談を開催いたします。

※都合により、予告なく中止・変更になる場合がございます。

以 上